

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年四月度 入選句(投稿総数千九百四十九句・小中学投句数千百七十四句)

特選

選者 遠藤 幹郎

庭先にもんしろちようのお客さま 大垣市 糺矢 みう(小四)

季語は、「もんしろちよう」(春)。庭さきに花の蜜を探し回り、花から花へと花粉を運ぶちようを「お客さま」と言ったところに、作者の「春を告げる使者」を迎えた喜びがうまうま表現できました。庭には、沢山の花が美しく咲いているのでしよう。小さな白蝶が花から花へ飛び交っている様子が目に浮かぶようです。

ランドセルとつてもおもいなしんがつき 大垣市 神田 彩成(小五)

季語は、「しんがつき」(春)。五年生になつて、一年生から使いなれたランドセルを肩にかけた瞬間、ずつしりと重さを感じたのですね。上級生になると、教科書やノートの厚みも増したからでしょう。進級の喜びと上級生の責任の重みも実感した共感を呼ぶ一句です。ただ、中七の「どつても」を「どつても」にすると十七音におさまります。

せんせいはみんなだいすきはるのはな 大垣市 ふじた だいご(小五)

桜の咲く幼稚園に入園したときの喜びの気持ちがあふれた一句です。園庭いっぱい桜をほじめ美しい花が咲く中お世話になる先生方に迎えられ、緊張して入園式に臨んだ作者は、園長先生をはじめ担任の先生方が、にこやかに明るく迎えてくださったことで、ほつとしたうれしさがこの句から伝わってきます。

秀逸

桜さき人の心も花がさく 大垣市 高田 優歩(小六)

こいのぼりみんないつしよにおよぎだす 大垣市 三輪 亮太(小三)

なの花でかくれんぼするもん黄ちよう 大垣市 田中 凜(小三)

はるのつきなんてあんなに大きいの 大垣市 浅井 千空(小三)

竹の子は赤ちゃんのように育つてく 大垣市 田中 愛美(小四)

春の風ぼくのほつぺをくすぐるよ 大垣市 酒本 晃輔(小四)

れんげそうみつバチたちの会社だよ 大垣市 長瀬 僚汰(小四)

くるくると空飛ぶ練習ツバメの子 大垣市 廣瀬 涼雅(小四)

手をつなぎ一緒に登校一年生 大垣市 西脇 楓華(小六)

さくらちり母のあたまにかみかざり 大垣市 吉田 奏(小五)

入選

ほたるいかキラキラひかる星みたい 大垣市 大澤 志保(小四)
 桜鯛きれいなうろこひからせる 大垣市 服部 匠真(小四)
 はじめてのお花見だからちらないで 大垣市 西川 大貴(小三)
 しおひがりかぞくできそうかいの数 大垣市 山村 咲絢(小三)
 さくらもちさくらの味がきいている 大垣市 古田 悠之介(小四)
 春風がせなかをおすよぐいぐいと 大垣市 長瀬 僚汰(小四)
 たけのこが天に向かったのびている 大垣市 竹内 恒太(小六)
 春の服これが一番のお気に入りに 大垣市 那須 春仁(小六)
 一年生ささえてあげる私たち 大垣市 加藤 望愛(小五)
 春の朝鳥のさえずりきこえるよ 大垣市 吉田 歩尚(小五)

入選

ぶらんこでいろんな風をかんじとる 大垣市 吉岡 優風(小四)
 桜さきおけしようにした水門川 大垣市 高田 優歩(小六)
 いもうとよせいふくとてもにあつてる 大垣市 出井 陽(小三)
 春風が私のぼうしさらってく 大垣市 糺矢 みう(小四)
 ふなくだりさくらの中をくだってる 大垣市 小林 昂汰(小四)
 さくらさくみんなのほっぺもさくら色 大垣市 川地 亜依佳(小四)
 お花見で家族そろってえがおだね 大垣市 うすい まなみ(小四)
 たんぼぼが遊ぼ遊ぼとさそってる 大垣市 三輪 彩乃(小六)
 夜の川みなもにうつる桜たち 大垣市 山本 菜月(小六)
 月明かり夜桜うつる川の中 大垣市 森下 香奈(小五)

選者吟

城門をくぐれば天守木の芽ふく

幹郎